

Rinnovation

ビールの副産物をデニムに

サツポロビールと協業

「ビール副産物をどうにかアップサイクルできないか」。地域創生事業を行うRinnovation(リノベーション、東京都文京区)が手掛けるデニムブランド「シマ・デニム・ワークス」はこのほど、サツポ

ロビールと協業し、ビールの製造過程で出る副産物を活用したデニムを使ったストレートジーンズを開発した。織布、縫製は備後地域の企業が協力。ジーンズは30限定で、28日まで抽選販売を行っている。



ビールかすやホップの茎、葉をアップサイクル

ジーンズは、サツポロビールの主力商品「サツポロ生ビール愚ラベル」初の通販サイトのオープンを記念して企画された。

使用したのは、ビールの製造時に出るモルトフアイド(ビールかす)や、ホップの収穫時に出る茎や葉など。シマ・デニム・ワークスは、沖縄県の製糖工場で発生するパカス(サトウキビの搾りかす)を活用したデニム製品を展開しているブランドで、このノウハウを製品作りに生かした。食品のパウダー加工を

行うオキナワパウダーフース(糸満市)がこれらをパウダー状に粉砕。特殊紙を製造する大福製紙(岐阜県美濃市)がパウダーとマニラ麻を混ぜ合わせて和紙にし、ここから糸を作った。デニム製造の篠原テキスタイル(広島県福山市)が経糸にインディゴ糸、緯糸に和紙糸を使って生地を織り、デニム縫製のNSG(同)がジーンズに仕上げた。

デニムは綿55%・和紙45%で12oz。篠原テキスタイルの篠原立哉氏は「深みのある濃紺色で、はき込んだ時にできるアタリは通常のデニムと違った味のある表情になる」と説明する。NSGの名和史普社長は「長く楽しんでほしいもらえるように、デニムの表情が豊かになるような縫製を

心掛けた」と話す。レザーパッチには愚ラベルのロゴマークと、原料となった「MALT」と「HOPS」の文字を刻印した。愚ラベルのシンボルである星と、サツポロビールの前身である開拓使麦酒醸造所の開設

年を表記したボタン、麦の穂をデザインしたリベットの取り入れるなど細部にもこだわった。Rinnovationの山本直人社長は「愚ラベルのモノ作りの本質や思いが詰まったジーンズに仕上がった」と話す。

価格は4万1800円。愚ラベルの通販サイトで抽選販売中だが、既に「現状で約1600件の応募がある」(サツポロビールマーケティング本部ビール&RTD事業部の荒木進之介氏)など好評だ。